

四番町図書館コメントコンテスト

応募総数 107 点から司書が選んだ

コメント 10点!

あなたの投票で
大賞が決まります!

2 『学年ピリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』

坪田信貴／著

株式会社KADOKAWA
アスキー・メディアワークス（角川文庫）



「ダメな人間なんていないんです。ただ、ダメな指導者がいるだけなんです。」という作者の衝撃的な一言から物語ははじまります。この一言に賛否両論あると思いますが、私はこれを素直に受け入れたら気持ちが軽くなりました。また、高校2年生の夏の時点で偏差値 30 のギャルのさやかちゃんが絶対無理と思える慶應大学に現役合格ということをやり遂げたので自分にも奇跡が起るかもしれないと信じられる物語です。【シースルーさん】

4 『ずーっとずっとだいすきだよ』

ハンス・ウィルヘルム／絵と文
久山太市／訳

評論社



これは犬のエルフィーと男の子のお話です。2人は大の仲良しで一緒に大きくなりますが男の子よりも早く年をとって行くエルフィーに男の子は寝る前必ず「ずーっとだいすきだよ」と言っていたので、エルフィーが死んだ時男の子に悔いはありませんでした。この本を読んで私はペットだけでなく家族や友達など大切な存在に対して気持ちを言葉で伝えることの大切さを改めて考えさせられました。いろいろな人におすすめしたい本です。【明太子さん】

1 『お近くの奇譚』

～カタリベと、現代民話と謎解き茶話会～

地図十行路／著

株式会社KADOKAWA
アスキー・メディアワークス
（メディアワークス文庫）



この本は噂により危険な目にあっている人を助けるため、ハルとカタリベがその噂の真偽を判定する物語です。世界にはたくさんのお話がありますが、その成り立ちは伝説、事実、文学などから発展してきたものです。発展する過程の中で様々な要素が追加または排斥され、今では元の話と全く異なって語られている話もあるでしょう。そのような話を一つずつ細解いていくこの本は話の進化の偉大さを感じさせてくれます。【プライドたかめさん】

3 『思春期テレパス』

天沢夏月／著

株式会社KADOKAWA
アスキー・メディアワークス
（メディアワークス文庫）



大地、学、翼の3人は丁度良い距離感を保った友達だった。だが、学校で話題になった「友達の本音が知ることができるメール」により距離感がだんだんとくずれていく。本音を知ることが良い事なのか、悪い事なのか。また、知ったことにより友人関係がどのように変わってしまうのか。今、青春している中・高生たちや大人の世界で生きる社会人たちにもう一度相手の事について考える機会をくれる本だと思うので、ぜひ読んでみて欲しい。【カインバナさん】

5 『精霊の守り人』

上橋菜穂子／著

新潮社（新潮文庫）



「国やしゃべる言葉がちがう人は、別の考え方もとることは知ってるか。」これは本の中で呪術師トログイがチャグムという少年に言った言葉だ。私はこの言葉は的を射ていると思う。この本では異なる立場や考え、信仰を持った人々がチャグムと彼に宿る精霊を守る為に協力し、自らの命も省みず奮闘する。現実でも彼らのように互いに理解し合えたらいいのと思う。この本は命や文化について読む者を考えさせる力がある。【柿沢らみさん】

6 『世界から猫が消えたなら』

川村元氣／著

小学館（小学館文庫）



もしあなたが自らの余命を言いわれたなら何をしますか？この本は病で余命を宣告された男が、余命を延ばすことのできる悪魔と出会い、身近なものを代償に延命をする話です。日々死を見つめながら男が見出した大切なものとは、親と子、また友人や愛する人などへの最後の思いとは。人として生きることに喜びを感じられる一冊です。また、読んでいただけでかわいさが伝わってくる猫にも注目です。【R・Kさん】

8 『僕の行く道』

新堂冬樹／著

双葉社



私がこの本を初めて読んだのは小学生の時に、その頃の私にはまだ難しく、よく話を理解できませんでした。高校生になって改めてこの本を読んで、自分よりずっと幼い主人公がたった一人で母を探しに旅をする姿に感動し、勇気をもらいました。それと同時に、母親に対していつも反抗ばかりしていても申し訳ない気持ちになりました。この本を読むと、両親の大切さを改めて感じることができます。【雨虎さん】

10 『夢をかなえるソウ』

水野敬也／著

飛鳥新社（文庫版）



この本は、ごく普通の会社員が、歴史上のキーパーソンは自分が育てたという関西弁で話す神様・ガネーシャと出会い、与えられた課題をクリアしていくことで成長していくお話です。関西弁が軽快で読みやすく、面白い。でも最後は感動してしまう。そして、ガネーシャの言葉に納得できることや気づかされること、簡単そうなことでも続けるのは思っているよりも難しいことなど、教えてもらうことがきつとある一冊です。【Y・Hさん】

7 『天皇の料理番 上・下』

杉森久英／著

集英社（集英社文庫）



この物語は明治、大正、昭和を生き抜いた、一人の男が主人公である。この男は小さい頃から物事に飽きやすかったが、カツレツをキッカゲに料理番になることを決意する。そこから様々な困難に立ち向かうが、自分を支えてくれる人々のおかげで、夢を追いかけることができたのではないかと思った。この本は自分が何かに夢中になってがむしゃらになれば必ず努力が報われるということ、大いに痛感する小説である。皆にも読んでほしい。【エリンゴさん】

9 『名画は嘘をつく』

木村泰司／著

大和書房（ビジュアルだい和文庫）



皆さんは「モナリザ」を初めて目にした時、何を思いましたか。綺麗、なんとなく怖いなど様々なことを思った人がいると思います。この本では私達が一度は見たことのあるような絵から目にする機会の少ない絵まで、多くの絵のあまり知られていない画家達がその絵を描いた真実が書かれています。作品もカラーで載っており、絵画好きの方から初心者の方まで楽しめる本です。ちょっとした空き時間に名画の世界を覗いてみませんか。【かんちゃんさん】

投票方法

- 展示・投票期間 10/27（火）～11/9（月）
- コメントを読んで、いちばん「読みたい!」と思った本に投票をお願い致します。
- 備え付けの投票用紙にご記入のうえ、専用の投票箱に投票してください。
（投票箱設置館：四番町図書館・千代田図書館・日比谷図書館文化館・昌平まちかど図書館・神田まちかど図書館）
- 得票順に大賞1名・準大賞2名を決定します。
- 発表は11月中旬です。
（千代田区立図書館に掲示します）